

令和2年度岡山市市民協働推進モデル事業 最終評価表

実施団体	NPO 法人チャリティーサンタ	協働部署	こども福祉課	記入日	令和3年3月19日
------	-----------------	------	--------	-----	-----------

1. 事業の目標と達成状況

目標	目標に対する現在の状況と今後の対応(目標に対する最終の状況と自己評価)	ESD・市民協働推進センターから
定性的効果 (子どもの自己 肯定感・親子の 愛着形成) 体験活動参加 者のアンケート 等で把握	各活動のタイミングでアンケートを収集した。 ・ありがとうファーム(マスク&体験キットの配布)…25件 ・ありがとうファーム(誕生日企画)…88件 ・大町(駄菓子贈呈と体験のプレゼント)…92件 ・POLA*キッズアカデミー(エステ職業体験)…13件 ・カバヤ(バーチャル工場見学)…1件 ・健康づくりチャレンジ企画…15件 選択式と自由記述の回答から、「親子の時間に良い影響がありましたか(ありそうですか)?」への回答の内「あった(ありそう)」が232件中213件(91.8%) 【今後の対応】 引き続き体験プログラム実施後にアンケート収集するなどにより、プログラムの効果を測定する。	【相互理解の原則】 前年度のニーズ調査事業を協働で行っており、そこから今回のモデル事業へと繋がっている事により相互の理解が十分進んでいる。 【目的共有の原則】 早期に、確実に、支援につなぐための環境整備を目的とすることを、事業者・担当課の双方が理解していた。 状況の変化に伴うスケジュール変更にも柔軟に対応し、同じ方向を向いて進められていた。
定量的効果 連携企業・団体数 目標:10社、20団体	企業 ・意見交換会に参加した企業:6社 (意見交換会に参加できず個別訪問した企業:1社) (株)アイスライン、(株)Jオイルミルズ、(株)大町、(株)ありがとうファーム、カバヤ食品(株)等 ・プログラムにおいて連携した企業:4社 (株)大町、(株)ありがとうファーム、カバヤ食品(株)、(株)POLAピオーネ店 団体 ・メルマガ配信に参画している団体:25団体 ・プログラムにおいて連携を進めている団体:2団体 公益財団法人岡山県健康づくり財団、母子寡婦福祉連合会 【今後の対応】 プログラム実施に向けて協議中、今後の連携を視野に連絡先を把握している企業・団体との連携を図る。	【対等の原則】 定例ミーティングにて、互いに進捗状況や役割分担を確認しながら事業を進められていた。 【自主性及び自立性尊重の原則】 実施団体、協働部署それぞれが、互いに持っている情報を進んで提供し、お互いの

<p>定量的効果 提供できる支援 プログラム数 目標：新規3件、 既存20件</p>	<p>新規:6件(親子応援メールで情報を投げかけている) <ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうファーム:マスクと体験を共に届ける…100世帯 ・ありがとうファーム:誕生日カードと絵本の送付…173名 ・大町:駄菓子と体験を家庭に届ける活動を実施…150世帯 ・POLAキッズ:ハンドマッサージ職業体験企画…61世帯 ・カバヤ:自由研究応援企画…15世帯 ・健康づくりチャレンジ企画…31世帯 <p>既存情報:35件 【今後の対応】 提供できる支援プログラム数の増加を図ると共に、民間で継続的に支援を継続できる体制構築を図る。</p> </p>	<p>状況を理解した上で事業を進められていた。</p> <p>【公開の原則】 必要な情報は随時、実施団体と協働課の間で確認されていた。</p>
<p>定量的効果 当事者ネットワ ーク参加者数 目標：300家庭</p>	<p>親子応援メール登録者数:約2,000名(2021.2末時点) 新規6件のプログラムに参加した家庭数:530世帯(2月末 延べ数) 【今後の対応】 親子応援メール事業の活用などにより、対象家庭と双方向にやり取りできる体制づくりを検討する。</p>	
<p>定量的効果 メディアへの掲 載・取材数(市民 への啓発) 目標：6本</p>	<p>新聞取材4件、ラジオ出演1件 <ul style="list-style-type: none"> ・山陽新聞 (2020.6.2) マスク・工作キット贈呈について ・山陽新聞 (2020.7.1)ひとり親家庭へ駄菓子贈呈について ・山陽新聞 (2020.7.31)7/30意見交換会について ・山陽新聞 (2020.8.21)メールマガジン配信について ・レディオモモ ラジオ出演(2020.7.4)「輝くおかやま夢ガール」ひとり親家庭への「体験」提供について 【今後の対応】 プログラム実施前のプレスリリースや、メディア掲載等により、市民へ啓発を図る。</p>	
<p>年間を通じてひ とり親家庭への 体験活動の情報 提供ができる仕 組みの構築を目 指す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供のツールは、前年度のニーズ調査を踏まえて市のコロナ対策事業として前倒しで施策化された。対象家庭へ登録を働きかけるチラシを配布し、登録家庭に対してメールまたはLINEにて情報提供が毎週行われている。 ・体験活動を提供してもらえる企業・団体から情報収集を行い、取りまとめて記事を作成している。 ・意見交換会を開催し、参加企業・団体へ、活動の主旨説明と事例紹介、意見交換などを通して、貧困家庭の課題解決に何か提供したいという企業・団体のネットワークの基盤拡充ができた。 	

【今後の対応】

- ・岡山市の「親子応援メール」を活用して情報配信を継続する。